

富良野

十勝岳発 大地の鼓動を発信



④十勝岳エリアを巡るツアーも行われた。美瑛町の十勝岳望岳台では、地元ガイドが火口を望みながら噴火の歴史を紹介した。参加者の1人は「かつての泥流の跡だと思えば、見え方が変わってくる」と話した
 ⑤上富良野町役場前で開かれた物産展「丘と彩りのふれあいマルシェ」。豊かな大地が育んだ野菜の詰め放題が人気だった。旭川市などでつくる「大雪山カムイミントラジオパーク構想推進協議会」のブースも並んだ



売会場では、上富良野高生が来場者にパンフレットを手渡し、会場の案内や会議室でのマイクの受け渡しなどにも活躍した。
 実行委員長を務めた角和浩幸・美瑛町長は上富良野町保健福祉総合センターかみんでの閉会式で、「多くの町民や子どもたちが地域に誇りを感じてもらえた」と意義を語った。来年は、1926年(大正15年)の十勝岳噴火による「大正泥流」から100年の節目を迎える。「今大会で得た学びや各地との絆を、今後にも生かしたい」と述べた。(後藤耕作、立木大造)



【美瑛、上富良野】28日まで2日間の日程で行われた「第15回日本ジオパーク全国大会十勝岳大会」(実行委主催)は約700人が訪れ、貴重な地質遺産を大地の恵みとして観光や教育へ活用するとともに、防災・減災の取り組みも強化していくことを確認した。分散開催で会場が両町に分かれ、ボランティアも奮闘する「小さな町での大きな大会」(関係者)は盛況だった。

700人來訪ジオパーク全国大会盛況

大会期間中は、口頭発表やポスター発表、アポイントメントパーク(日高管内様似町)のかんらん岩展示などで両町のホテルや公共施設をフル活用し

を巡る種類のツアーも実施した。各会場の運営は市民ボランティアも延べ約100人が担った。各地の特産品が販売された物産展